

「なぜ2度も骨折するのか、施設の説明は疑わしい！」

■足の指を2度骨折した

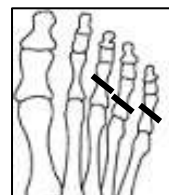
グループホームに入所している認知症の重いKさん(78歳・女性)は、身体に障害の無い自立歩行の利用者です。ある時、右足の指が腫れあがっていることに職員が気づき整形外科を受診すると、右足趾第3足指～第5足指の基節骨の骨折と判明しました。医師は、「認知症のお年寄りだから家具に足をぶつけたんでしょう」と言いました。

相談員は家族に対して医師の説明を伝えた上で「タンスの角やベッドの足などにぶつけて骨折したようです。少しつま先のしっかりしたリハビリシューズをご用意いただければ、骨折の防止に役立つと思います」と説明しました。家族はすぐにしっかりしたリハビリシューズを購入してくれました。ところが、リハビリシューズを購入した翌週に今度は左足趾の腫れが発見され、今度は左足趾第4足指～第5足指の基節骨の骨折と判明し、家族は「認知症の母のせいになっているのではないか。施設の説明は疑わしい」と言われてしまいました。

無理な生活動作が無いかな動作環境をチェックしよう

■医師の説明が正しいとは限らない

医師の説明を鵜呑みにして家族に伝えてしまったことで、家族トラブルになってしまいました。グループホームでは、同じ法人の老健のPTに来てもらい、もう一度骨折の原因を再検証することになりました。PTは「ぶつけて骨折したのであれば、指先に内出血が起るはずなのに内出血が無い。指先を挫いたのではないかと」言い、生活動作に危険がないかをチェックしました。



右足趾基節骨骨折

■足の指をくじいていた？

PTはすぐにベッドの位置が高いことに気づき、ベッドから降りる時に指先を「挫いて骨折したのではないかと」言いました。具体的には、「ベッドから降りる時に足が床に着かないと、爪先立ちになる姿勢で体重が乗るので足趾が骨折する可能性がある」と話してくれました。施設ではすぐにベッドの状態を確認すると、小柄な利用者に対してかなり高い位置に固定されていたことが分かりました。Hさんの足趾の骨折は、素足か靴下を履いた状態でベッドから降りる時に、爪先立ちになって体重がかかって折れたものだったのです。

施設では、PTによる生活動作環境のチェックの結果をもとに「ベッドを上り下りがしやすい高さに設定していなかったことが、骨折の原因かもしれない」と改めて家族へ説明しました。

■障害のない認知症の利用者は生活動作のチェックを

障害の無い認知症の重い利用者で移動が頻繁な利用者は、介護職員もどこでどのような動作をしているのかを把握することが意外と難しいことがあります。グループホームでも、いつの間にか骨折していて「いったいどうしたらこんな場所が折れるのか？」ということがあります。

ところが施設では、利用者の骨折事故が発生し事故状況が不明な場合、医師が事故状況について色々な見解を説明してくれると助かるので、それを信じてしまうこともあるでしょう。しかし、医師はお年寄りの生活を良く見ている訳ではありませんし、本人の生活状況を知りませんから一般論で言っているだけなのです。ですから、このようなケースでは、「医師の見解は〇〇だけれど、改めてご本人の生活状況を良く見させていただきます」と、説明した方が無難かもしれません。余談ですが、踵を骨折した認知症の利用者の事故原因について、「高いところからコンクリートの床に飛び降りるとこんな骨折をします」と言った医師もいたそうです。

発行責任者

あいおいニッセイ同和損害保険株式会社

マーケット開発部 市場開発室

担当 森田・山口 TEL050-3462-6444

監修 株式会社安全な介護 代表 山田 滋

担当課・支社 代理店